

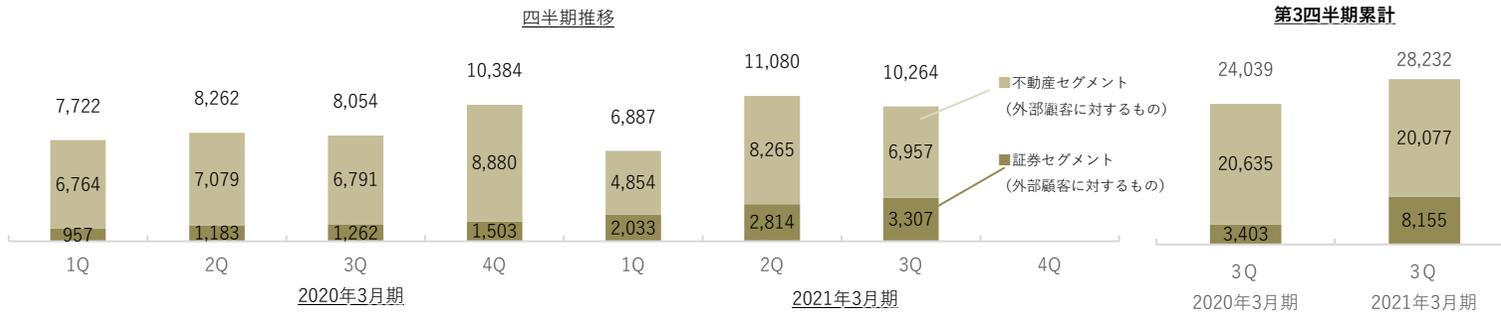
決算説明資料 2021年3月期第3四半期

2021年2月12日



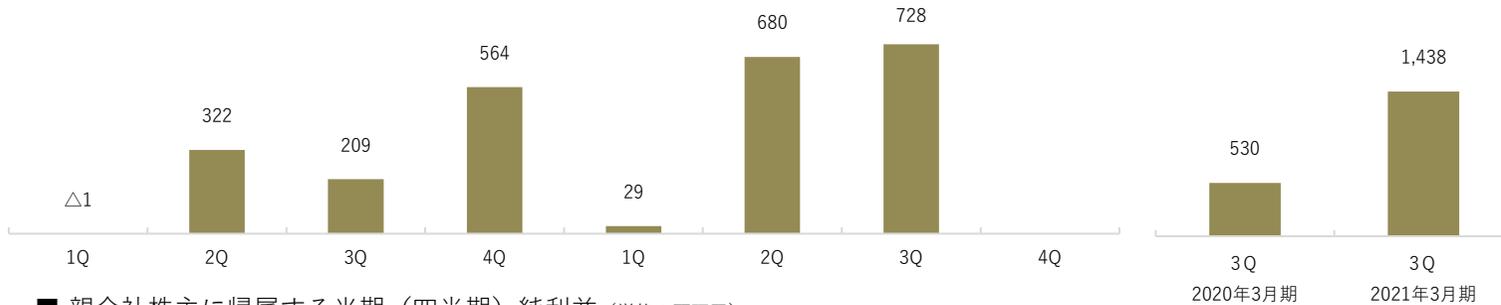
1-①. 連結PL <当期・前期>

■ 営業収益 連結消去後 (単位: 百万円)



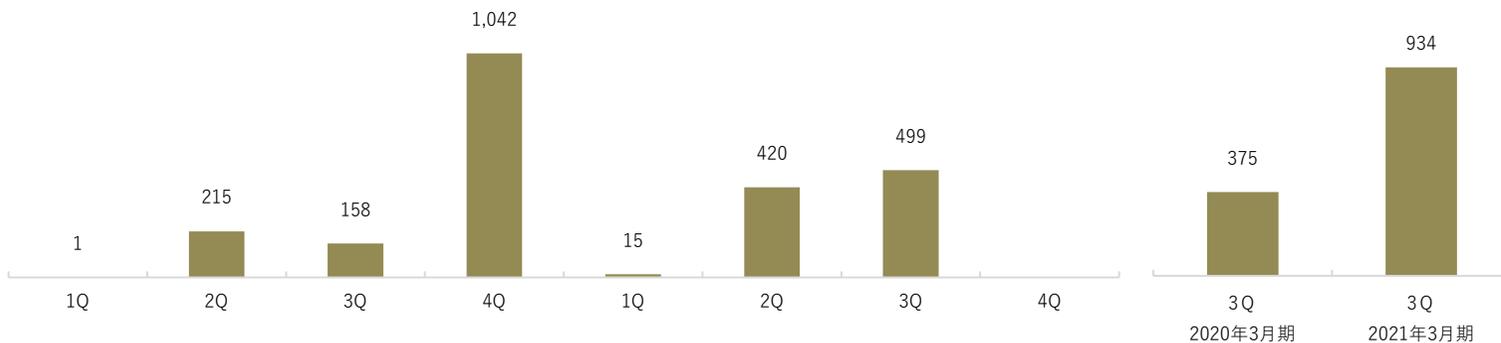
営業収益
17%増
(前年同期比)

■ 経常利益 (単位: 百万円)



経常利益
172%増
(前年同期比)

■ 親会社株主に帰属する当期 (四半期) 純利益 (単位: 百万円)



親会社株主利益
149%増
(前年同期比)

1-②. セグメント情報 < 営業利益 >

- ▶ 連結営業利益は84.5%増の1,704百万円
- ▶ 証券セグメントの営業利益は254.4%増の1,057百万円
- ▶ 不動産セグメントの営業利益は3.9%減の1,404百万円（のれん償却額は含まない）
- ▶ 2020年3月期（前期）は3Qまでに子会社からの配当収入1,500百万円を全社収益、その消去をセグメント間取引消去として計上



*1 不動産セグメントに含まれるのれん償却額は「のれん償却」として別掲表示 *2 本社(持株会社)収益は子会社からの配当収入や日本橋事務所転貸に伴う賃貸料収入

*3 本社(持株会社)費用は上場維持・グループ管理・グループ会社の日本橋事務所を一括で賃借する賃借料などの経費

*4 セグメント間取引は主に子会社からの配当金や事務所転貸に伴う賃貸料収入、当社及びあかつき証券との社債関連手数料の消去

2. 連結BS

- ▶ 総資産は6,473百万円増加
 - 現預金+4,568百万円、預託金（証券）+6,000百万円、投資有価証券+1,295百万円、販売用不動産－5,600百万円
- ▶ 負債は6,656百万円増加
 - 預り金（主に証券）+8,276百万円、有利子負債（ノンリコース除く）－1,945百万円
- ▶ 純資産は183百万円減少
 - 親会社株主利益+934百万円、配当－656百万円、非支配株主との取引－230百万円、自己株式の取得－200百万円

	2020年 3月31日	2020年 12月31日	増減
流動資産	53,971	59,235	+5,264
現預金	16,462	21,030	+4,567
預託金	8,000	14,000	+6,000
販売用不動産	24,695	19,095	－5,599
固定資産	4,823	6,032	+1,208
のれん	1,780	1,614	－166
投資有価証券	764	2,059	+1,295
総資産	58,794	65,267	+6,473

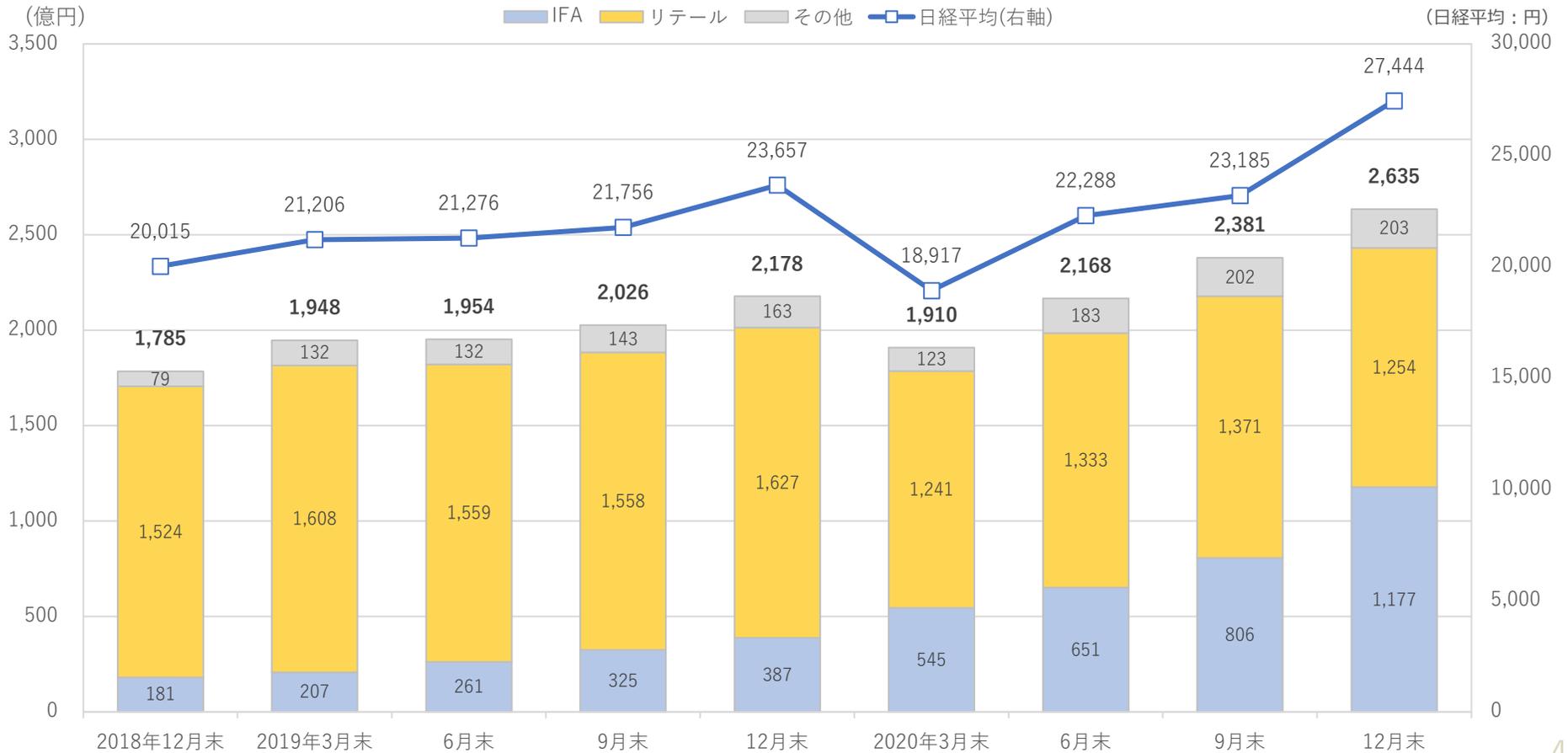
	2020年 3月31日	2020年 12月31日	増減
流動負債	29,782	40,698	+10,915
預り金	8,181	16,457	+8,276
短期借入金*	13,663	14,301	+638
固定負債	15,515	11,255	－4,259
長期借入金	10,108	7,524	－2,584
純資産	13,473	13,290	－182
株主資本	13,390	13,272	－117
負債・純資産	58,794	65,267	+6,473

* 短期借入金、1年内返済予定の借入金の合計

3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ>

- ▶ 金融商品仲介（IFA）ビジネスの拡大に伴い、2020年12月末の預り資産残高は2,635億円、うちIFA部門は1,177億円となり、いずれも過去最高の預り資産残高を更新

預り資産の四半期推移

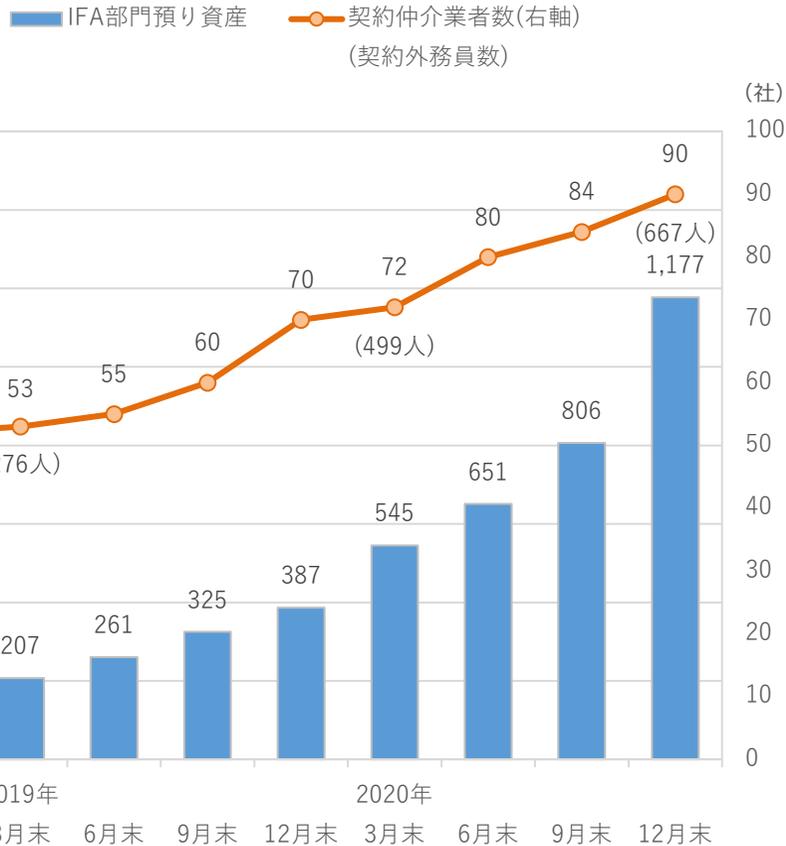


注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています

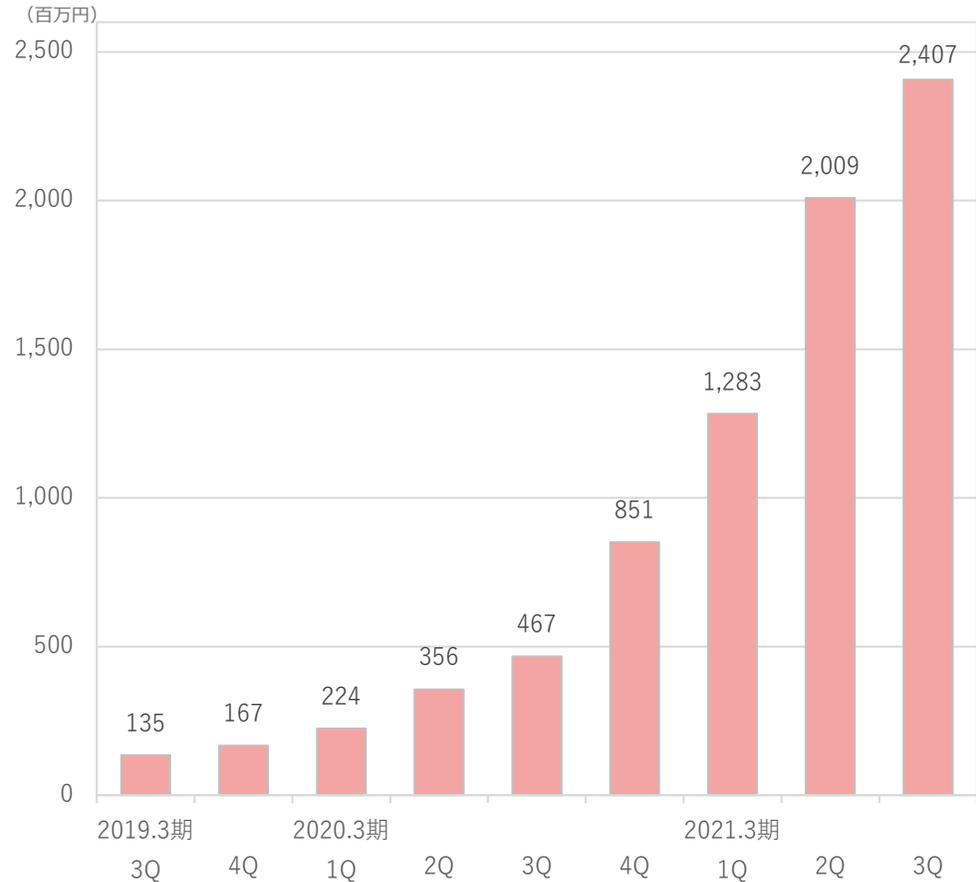
3-①. 証券セグメント <あかつき証券・ジャパンウェルスアドバイザーズ>

- ▶ IFA部門の預り資産は1,177億円、契約仲介業者数は90社、契約仲介業者外務員数は667人に拡大
- ▶ IFA部門の営業収益は当四半期（2020年10～12月）で2,407億円まで拡大

IFA部門の預り資産残高・契約仲介業者数の推移



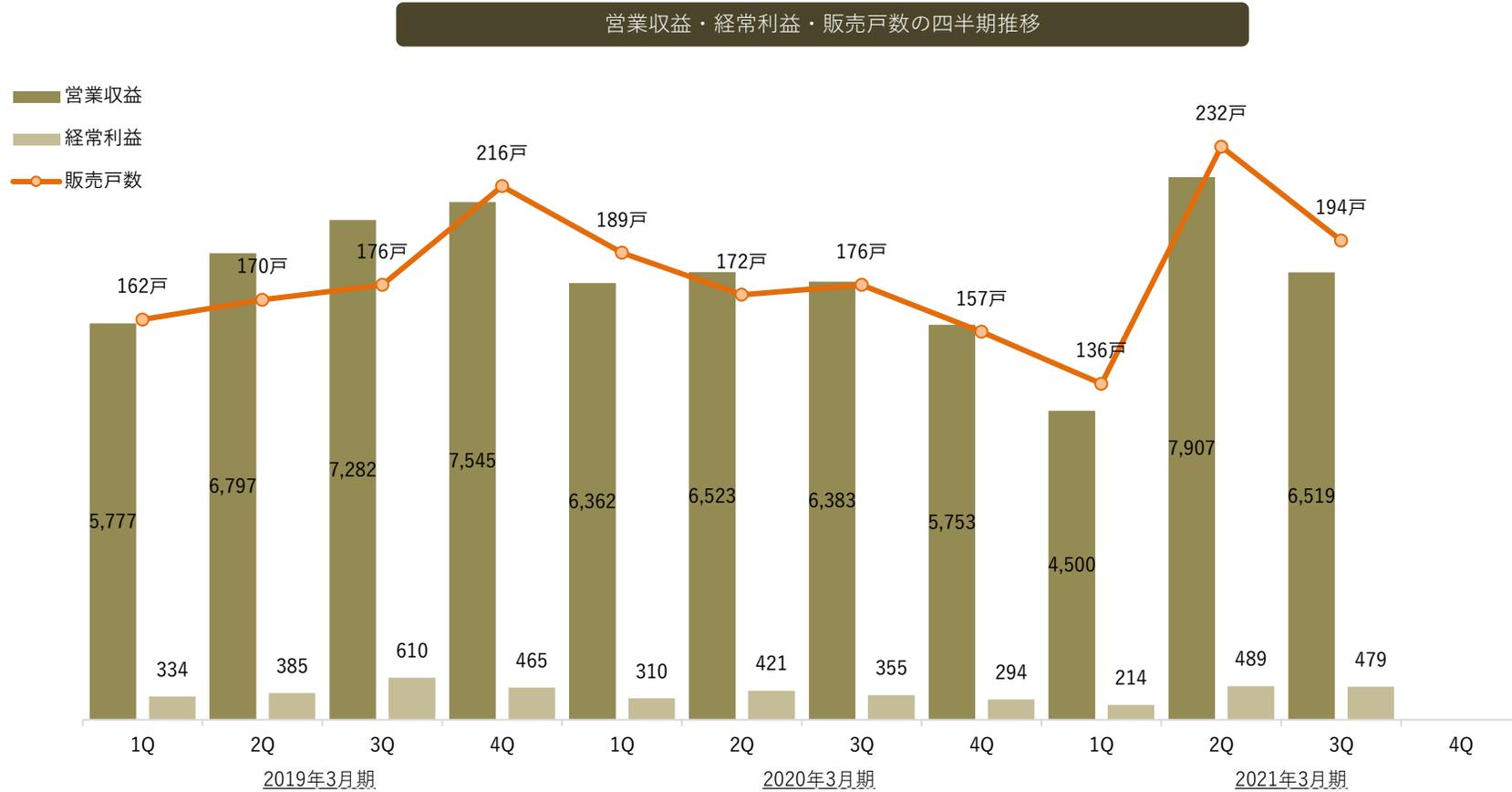
IFA部門の営業収益の推移



注) 預り資産残高は、あかつき証券の預り資産残高と、ジャパンウェルスアドバイザーズの提携金融機関における管理資産残高の合計となっています

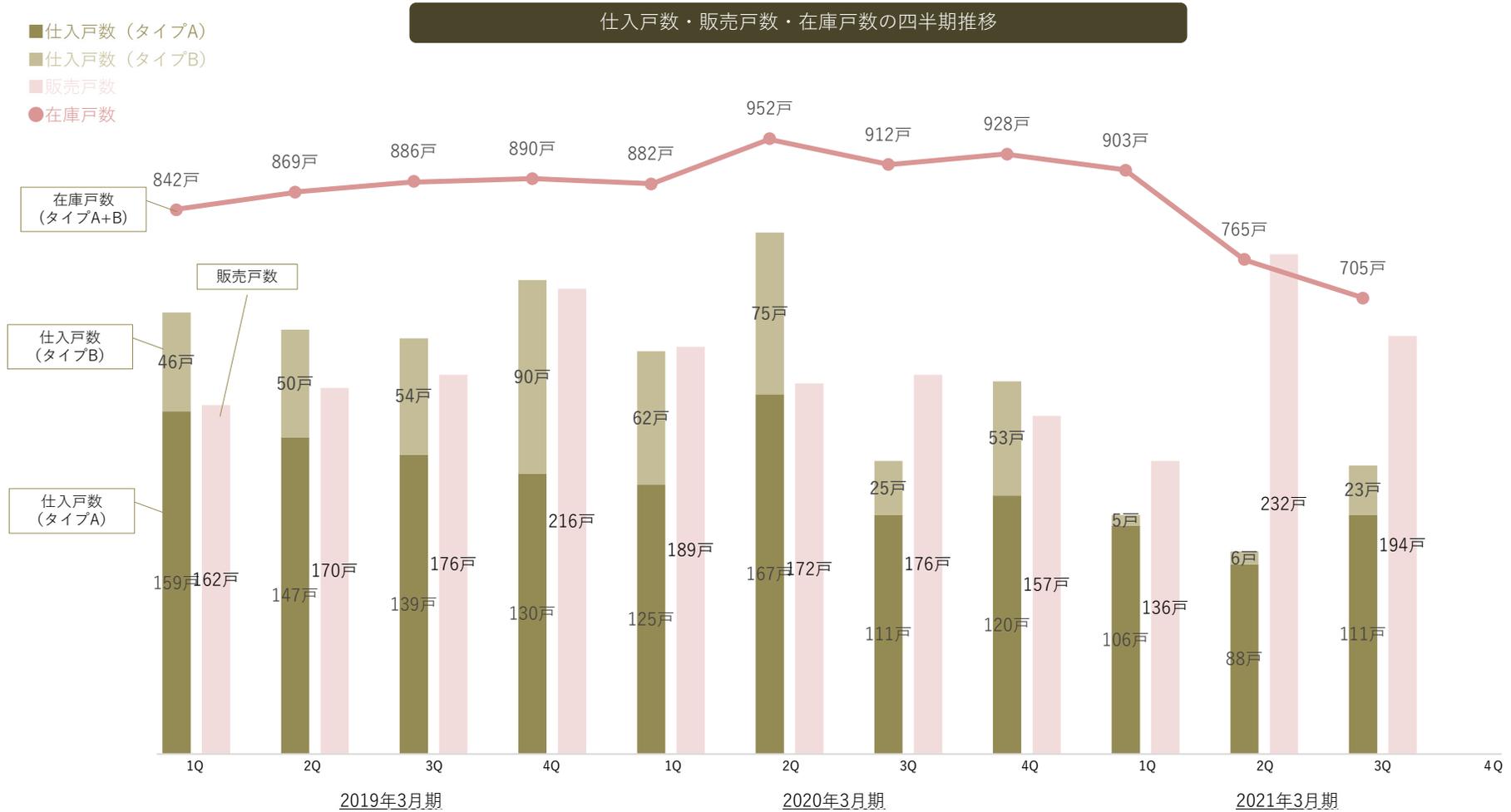
3-②. 不動産セグメント <マイプレイス>

▶ 販売は、緊急事態宣言下の1Qから持ち直し、足元では堅調に推移



3-②. 不動産セグメント <マイプレイス>

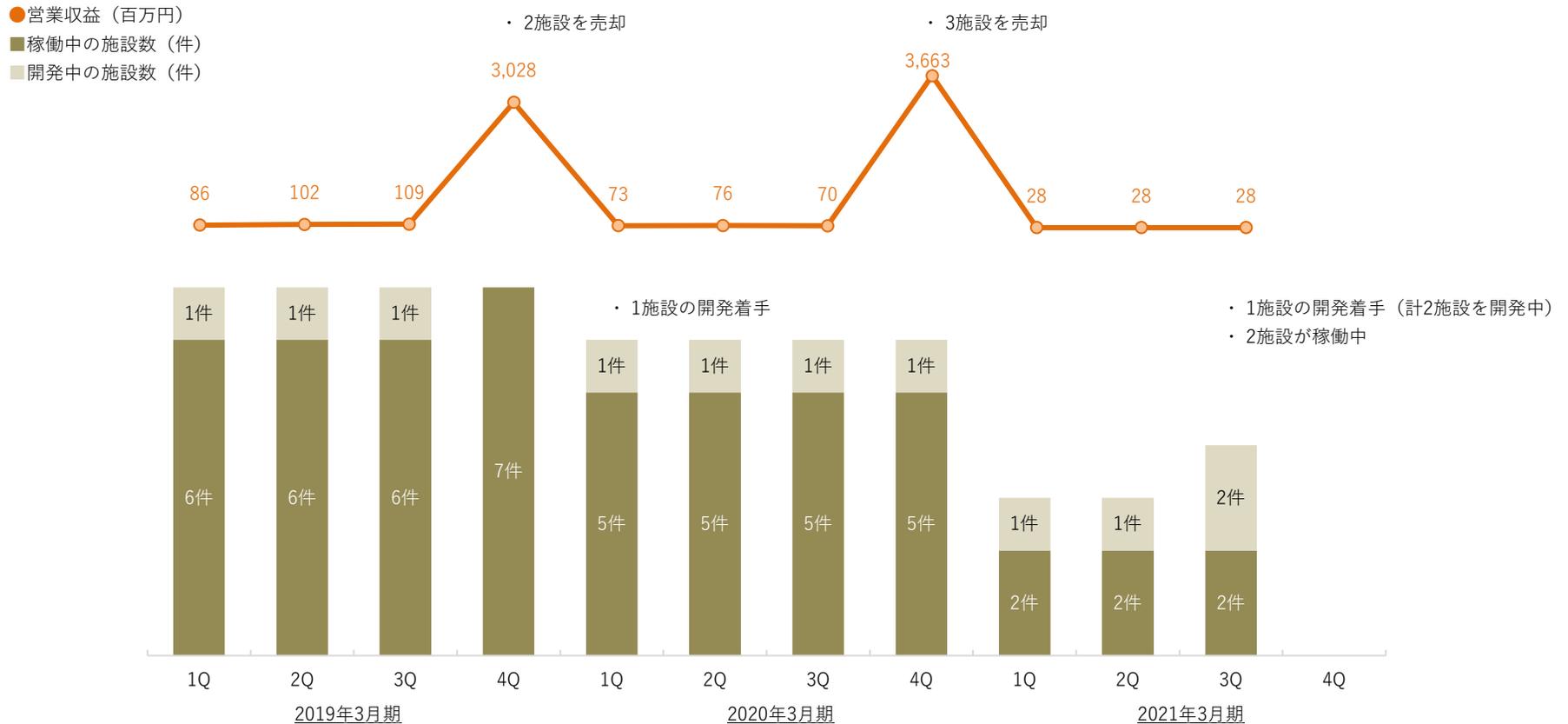
- ▶ 空室（タイプA）・賃借人付（タイプB）ともに仕入戸数は前年同期を下回る
- ▶ 販売は足元で堅調に推移し、在庫戸数は減少



3-③. 不動産セグメント <EWアセットマネジメント>

- ▶ 新たに熊本市にて介護付き高齢者施設の開発に着手
- ▶ 稼働施設の売却は来期以降に繰り越し

営業収益・稼働施設数・開発施設数の四半期推移



注) 営業収益は、稼働施設運営会社からの賃貸料収入と施設売却時の売却高の合計
 2020年3月期4Qの営業収益には、特別利益に計上した1施設の売却利益941百万円を含めて表示

4. 2021年3月期通期見通し <業績予想の修正>

【証券セグメント】

- ▶ IFA（金融商品仲介）ビジネスの拡大に伴い、営業収益・利益ともに、前期比・当初想定比で大幅に増加。

【不動産セグメント】

- ▶ マイプレイスにおいて、中古マンションの販売は足元では堅調に推移するものの、期初の販売戸数の減少分を補うには至らず、通年の営業収益は前期比・当初想定比ともにやや減少。一方で、経営合理化の寄与により利益面は前期比・当初想定比で増加。
- ▶ EWアセットマネジメントの運営するヘルスケアファンドにおいて、当初想定した高齢者施設の売却を翌期以降に繰り越した結果、営業収益・利益ともに、前期比・当初想定比で減少。

【当社連結業績】

- ▶ 営業収益は見通し数値を据え置く（前期比では増加）ものの、営業利益は2,300百万円、経常利益は1,900百万円を見込み、前期比・当初見通し比で大幅に増加。親会社株主利益は1,200百万円を見込み、当初見通しを大幅に上回るものの、前期4Qに計上した特別利益941百万円が剥落することから、前期比では減少。

	営業収益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	税金等調整前 当期純利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する当期純利益 (百万円)
前回発表予想（A）	36,000	1,500	1,000	—	650
今回修正予想（B）	36,000	2,300	1,900	1,900	1,200
増減額（B - A）	—	800	900	—	550
増減率（%）	—	53%	90%	—	84%
（参考）前期実績	34,423	1,594	1,094	1,962	1,417

注）税金等調整前当期純利益は、連結業績予想として開示していません。本決算説明資料においては参考値として記載しています。

2021年3月期の税効果会計適用後の法人税等の負担率（税金等調整前当期純利益に対する法人税等合計額の割合）は、当社における税務上の繰越欠損金減少により前期に比べ増加しています。

5. 配当予想 < 配当予想の修正 >

【株主還元に関する考え】

- ▶ 2019年3月期より、財務の安定と事業資金の確保に支障をきたさない限りにおいてDOE（純資産配当率）は4%以上の水準を維持し、ROE（自己資本利益率）が4%を上回る場合には、その部分の利益についても株主還元の原資とし、その一部を追加の株主還元に充当する方針
- ▶ 2021年3月期期末配当は現時点において9.5円（通期で18.0円）を予定（修正前は期末配当8.5円 通期17.0円）

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
中間配当	10.0円	10.0円	9.0円	8.5円
期末配当	10.0円	8.0円	11.0円	9.5円
年間配当	20.0円	18.0円	20.0円	18.0円
DOE (%)	3.9%	4.0%	4.8%	4.2%
ROE (%)	18.4%	8.9%	11.0%	9.0%
配当性向 (%)	21.5%	45.2%	43.1%	46%

注) 2021年3月期の期末配当・DOE・ROE・配当性向はいずれも現時点での予想値を記載しており、2021年1月から3月までの業況により実際は異なる可能性があります
 DOEは1株当たり年間配当を期首と期末の1株当たり連結純資産の平均値で除して算定
 ROEは親会社株主利益を期首と期末の自己資本の平均値で除して算定
 配当性向は1株当たり年間配当を1株当たり当期純利益で除して算定

免責事項

本資料に記載されている予想・見通しは、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

本資料に記載されたデータには、当社が信頼に足りかつ正確であると判断した公開情報の引用が含まれておりますが、当社がその内容の正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料は、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に際しては、投資家ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。